

第八十三回フォト句優秀作品（30年4月9日）



山の湯の

尽きぬ談義は

関節痛

(和彦)



髭あつめ仙人総会

ひそひそと

(晃二)

戦争NO！ 逝きし兜太や福寿草

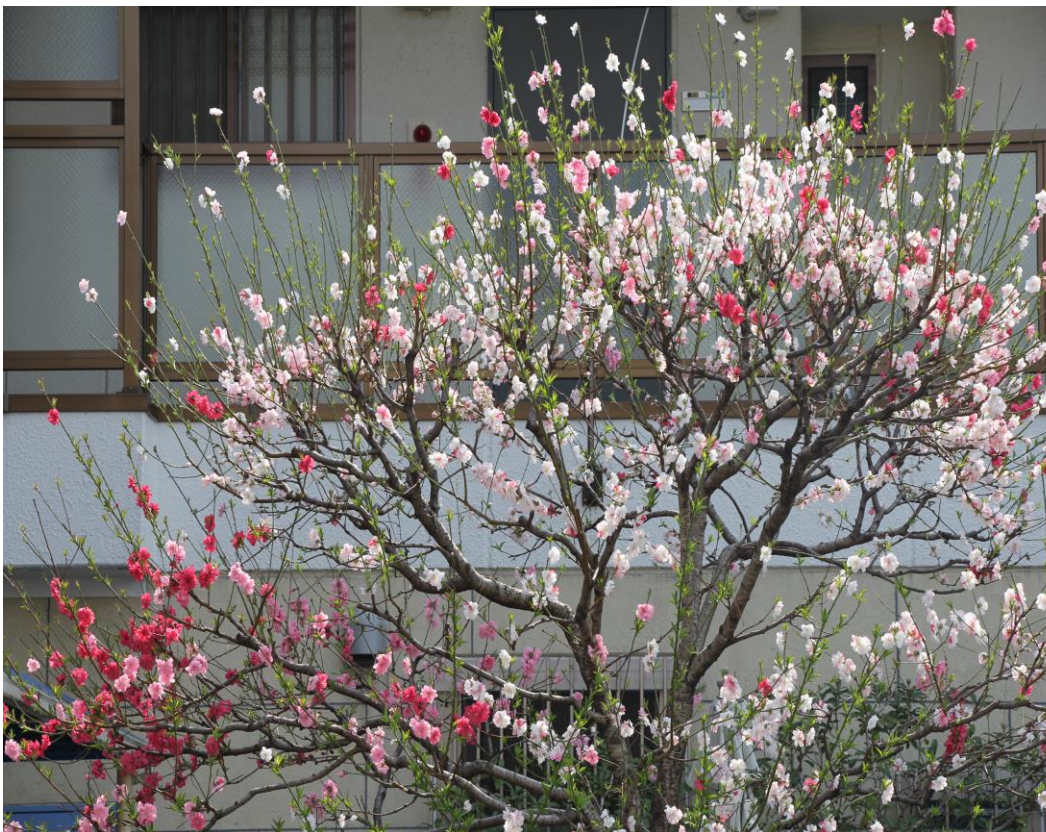
(浩平)



子等の背に柔らかき陽や散り桜 (健夫)



鳥になる
夢でも見たか
水ぬるむ (進一郎)



開くたび色目を試す浮気性
(進一郎)

寸評:

1) 山の湯の尽きぬ談義は関節痛

大月 和彦

雪に埋もれた一軒宿。酸性の出湯のため谷川は酸化鉄で赤く染まり、霧氷の谷間に湯けむりが上がる。湯治客の話題は関節痛であるという。閑静な山の湯の風景と句がよくマッチしている。

2) 髭あつめ仙人総会ひそひそと

安藤 晃二

岩肌を背景にした木の枝に垂れ下がったサルオガセを仙人の髭と捉えたセンスは素晴らしい。仙人総会とは恐れ入った。ただ、句は意味をなしていないのが残念だ。

3) 戦争NO！逝きし兜太や福寿草

大越 浩平

反戦を主張し続けた俳人金子兜太が亡くなった。それを悼んだ多くの俳人が追悼句を発表したが、フォト句では恐らくこの作品が最初であろう。句に取り合わせた冬の季語“福寿草”が適切で、大写しにした写真も兜太を偲んで悲しみを精一杯現わしているように見える。

4) 子等の背に柔らかき陽や散り桜

下山 健夫

お花見に来た人々が行き交う足許で、幼い子供がしゃがんで花びらを拾っている。その子たちの背中に春の陽が当たっている和やかな風景だ。原句の「子等の背を照らし温め散り桜」では、照らし温めている太陽の存在が不明確な上、動詞の重なりが句を重たくしているので修正した。

5) 鳥になる夢でも見たか水ぬるむ

長尾 進一郎

水面から跳ねた小魚をタイミングよく捉えた墨絵のような写真だ。下5の水ぬるむの一言で、穏やかな春の印象が浮き出て句が引き締まった。

6) 開くたび色目を試す浮気性

長尾 進一郎

花桃の写真はカラフルで綺麗だが、句は何を言いたいのか全く理解できないので、修正しようがない。5)の作品と同じ作者とはとても信じがたい。

句付



今回は松田さんの出題、御馴染み自由の女神の写真である。
混迷する超大国アメリカの現況を皮肉るような句が並んだ。

- 1) この国の現状案じ青くなる 長尾 進一郎
全身緑青を帯びた女神、確かに青くなっている。共感を覚える一句だ。
- 2) 移民には昔は女神今は壁 下山 健夫
移民の活力で隆盛を極めた自由の国がメキシコとの国境に壁を作ろうなんてとんでもない大統領だ。
- 3) 本物がモデルガンより安い国 三 春
各地で銃の乱射事件が起きる要因は銃保持の規制がないためだ。全米で高校生による大規模デモが発生したのは当然である。
- 4) Me Too と女神も手挙げ歩きだす 田中 しづえ
ハリウッド女優が喪服でパーティーに参加したり、これまで沈黙していたセクハラ被害者が次々に名乗りをあげている。着眼点が良い。 以上